

フリーペーパー ペッコ Vol.63 2023.5

PECCO



発行 岩手県立図書館

岩手県立
図書館

ツイッター Twitterの歴史



岩手県立図書館では、イベントやお知らせ情報の発信に
ツイッターを活用しているのをご存じですか?
今回は、すでに10年以上活用している岩手県立図書館
のツイッターの歴史についてそめちゃんが紹介します。

誕生日は
いつ?

1922年4月20日



101年前!?
どういうわけ?



今から約100年前の大正11年4月20日に
岩手県立図書館が誕生・開館しました。
創立記念日でもある4/20はまさに図書館の誕生日!
だからツイッターの誕生日をこの日にしてるんだって♪

誰が
つぶやいて
いるの?

初代 → システム担当
現在 → コンシェルジュ

硬めのツイートが魅力

親しみやすいツイートが魅力

アイコンはそめちゃんだけど、
現在実際につぶやいているのは
コンシェルジュの2人だよ♪



バズ
ツイート



みんなそめちゃんに
馬好きなのわけ?

チャグチャグ馬コの
古い絵葉書写真

一番「RT」されたのがコレ!
昭和7・8年頃の写真だよ。



▼下の橋を渡るチャグチャグ馬コ



川で休憩中の牛も
映り込んでおります。

今と違って昔はおじさんが馬に乗って、
しかも走っていたんだよ!

子どもが乗ようになったのは
昭和30年代頃からなんだって。



2011年7月1日

いつから
開始?

テスト投稿 6月25日

休館日情報
イベント情報
お知らせ情報
スタッフおすすめ本
岩手のトリビア

つぶやく
内容は?

ヘッダー
変遷

当時のエライ人、きくちゃん。
図書館のキャラクターとして
今でもたまに活躍中。



こんにちは〜。

始めた
きっかけ

東日本大震災で図書館が休館し、
ホームページサーバーもダウン。
メールも使えない状況を経験したことが
きっかけです。



東日本大震災ではSNSが情報
ツールとして大活躍していたこともあり、当館でも
リアルタイムに情報を配信できるツイッターを開設
することにしたんだよ。

最高
ツイート
件数

1日19件!!

岩手県立図書館
@iwate_pref_lib

ほかのみんなは、どうだろう...?
あ、圖書館で本を送っているお友達がいるよ!
#ぬいぐるみのとしよかんおとまり会



結局さ?
「かわいい」って強いよね。
勝てる気がしないもん。



初めてのつぶやきが
「事実のみ」っていうね。
キライじゃない。

祝・初
ツイート



いい?
「Twitterははじめました!」
とかじゃないからね?

本日は開館日です。

キツパリ!

2016年5月に開催した
「ぬいぐるみのとしよかんおとまり会」。
夜の図書館を探検したぬいぐるみたちを、
ツイッターでたくさん紹介しました。



お迎えに来たときに写真を
アルバムにしてプレゼントしたんだって。
あっという間に定員に達した
とっても人気のイベントだったみたい!

フォロー

県内の文化施設や、
県外を含む図書館施設など、
約260件をフォロー中。

みなさんも、岩手県立図書館で
見たり聞いたりして
楽しかったことなど、
どんどんつぶやいてね♪



ヨロシク〜。

おすすめ新着郷土資料 【2023年1月-3月新着分】



わたしは「ひとり新聞社」 岩手県大槌町で生き、考え、伝える

菊池由貴子 著／亜紀書房 出版

東日本大震災後、大槌町民に町の情報を知らせたいという思いから始まった『大槌新聞』。二度の心停止と離婚を経験した著者が、震災を契機に一人で小さな新聞を創刊し書き続けた10年間の奮闘記。被災地復興の光と影、真のメディアとジャーナリズムのあり方をあぶり出した、自伝的ノンフィクションです。



日本の「第九」 合唱が社会を変える

矢羽々崇 著／白水社 出版

ベートーヴェンが1824年に完成させた『交響曲第九番』。『第九』という通称で知られているこの曲は、今もなお世界中で演奏されているクラシック音楽の一つです。大学教授である岩手県出身の著者が、『第九』がいかにして日本に受け入れられ、市民参加型の合唱として定着していったのかを論じます。



賢治童話の魔術的地図 土俗と想像力

私市保彦 著／新曜社 出版

岩手の土俗の世界から「イーハトーブ」を創造した宮沢賢治。彼の童話は、岩手の野山に古くから伝わる伝承と欧米文学の影響を受けて誕生しました。様々な童話を丁寧に紐解き、比較文学の手法でその魅力を解き明かします。民俗的なもの、科学的なものなどが混交する謎に、世界文学の視点から迫ります。



雲を紡ぐ

伊吹有喜 著／文藝春秋 出版

羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布」盛岡ホームスパンをめぐる親子三代の心の糸の物語『雲を紡ぐ』の文庫版。盛岡の魅力溢れる本作品の反響を受け舞台となった鉈屋町では実際の町家を使用したイベントなども生まれました。文庫化に伴い、スピノフ短編「風切羽の色」(『いわてダ・ヴィンチ』掲載)を巻末に収録。



虎のたましい人魚の涙

くどうれいん 著／講談社 出版

時が過ぎ、変わっていくもの、変わらないもの。さりげない日常の場面や心情を切り取る言葉が読む人の心に響きます。『わたしを空腹にしないほうがいい』『うたうおばけ』に続く、盛岡市出身・在住の著者による最新エッセイ集。文芸誌『群像』で連載の「日目は分量」に、書き下ろし1篇を加えて単行本化したものです。



甲子園と令和の怪物

柳川悠二 著／小学館 出版

2022年4月に完全試合を達成した千葉ロッテマリーンズ所属の佐々木朗希投手。2019年の岩手大会決勝では当番回避を選択し、大船渡高校は甲子園出場を逃します。國保監督はなぜ登板回避を決断したのか。その裏側に迫ると共に、当時の野球部員や強豪校の監督・選手らへの取材から見える現場の実態を描いた一冊です。